

佐渡金銀山

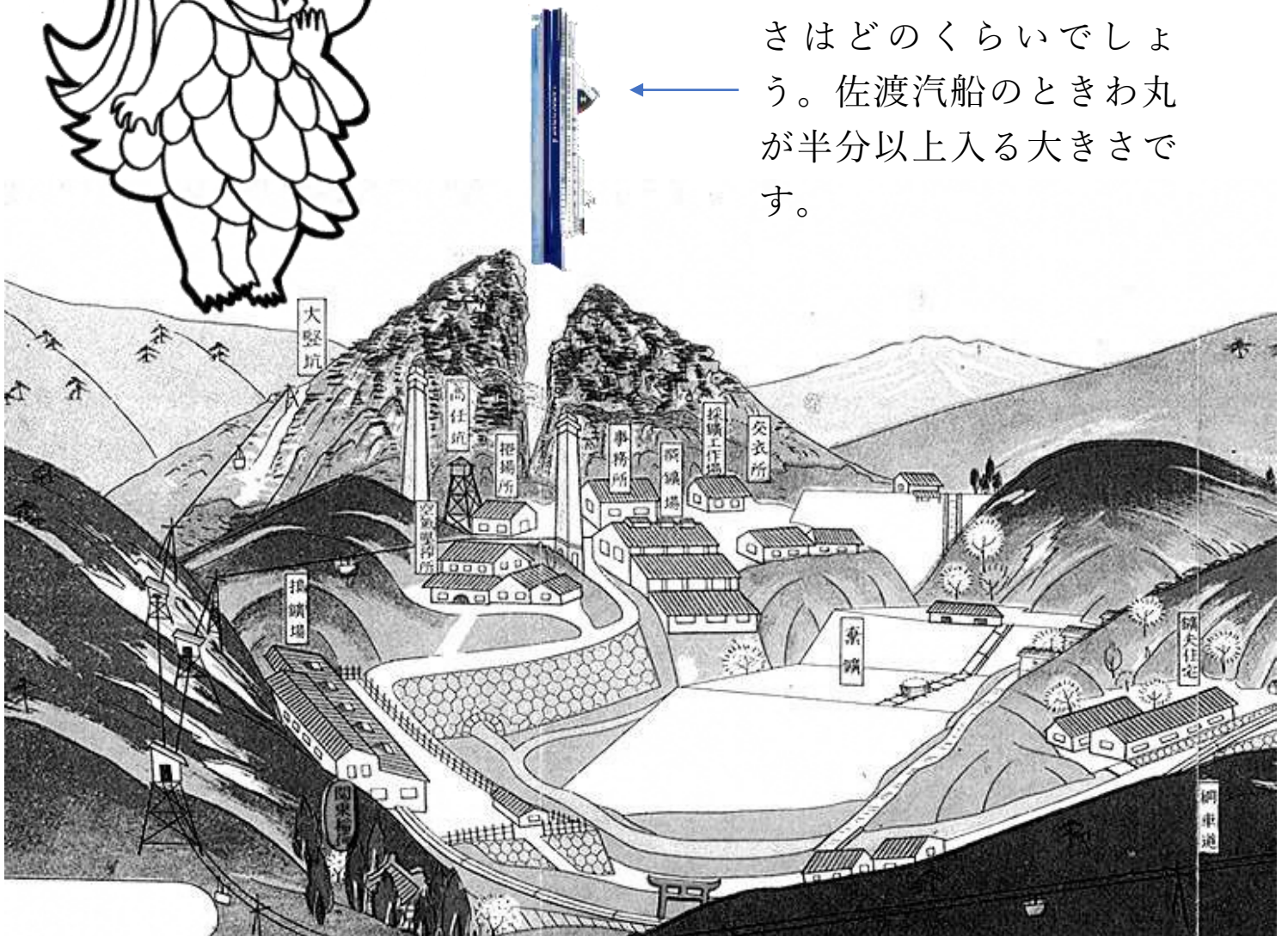
サドリちゃんが、佐渡金銀山について学んでいます。あなたは、どのくらい知っていますか。



問題1：山が割れたような形をしている場所を、何というでしょう。

問題2：なぜ、割れたような形をしているのでしょうか。

問題3：割れた部分の幅と深さはどのくらいでしょう。佐渡汽船のときわ丸が半分以上入る大きさです。

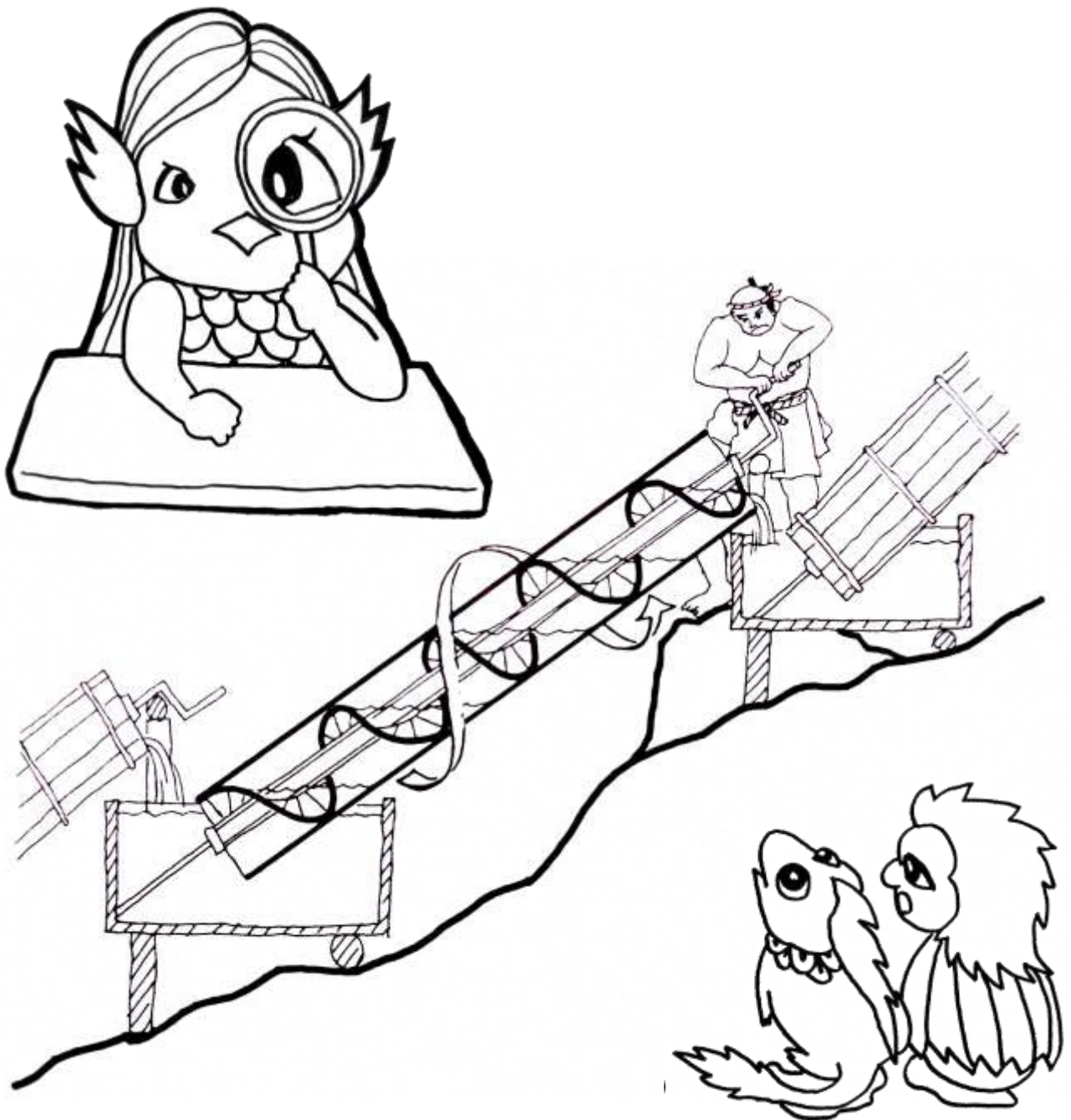


サドリちゃんが、ふしぎな道具を見えています。アルキメデスポンプと呼ばれる道具です。金を掘ると、水がたくさん出てきます。それをくみ上げるのが大変だったのです。

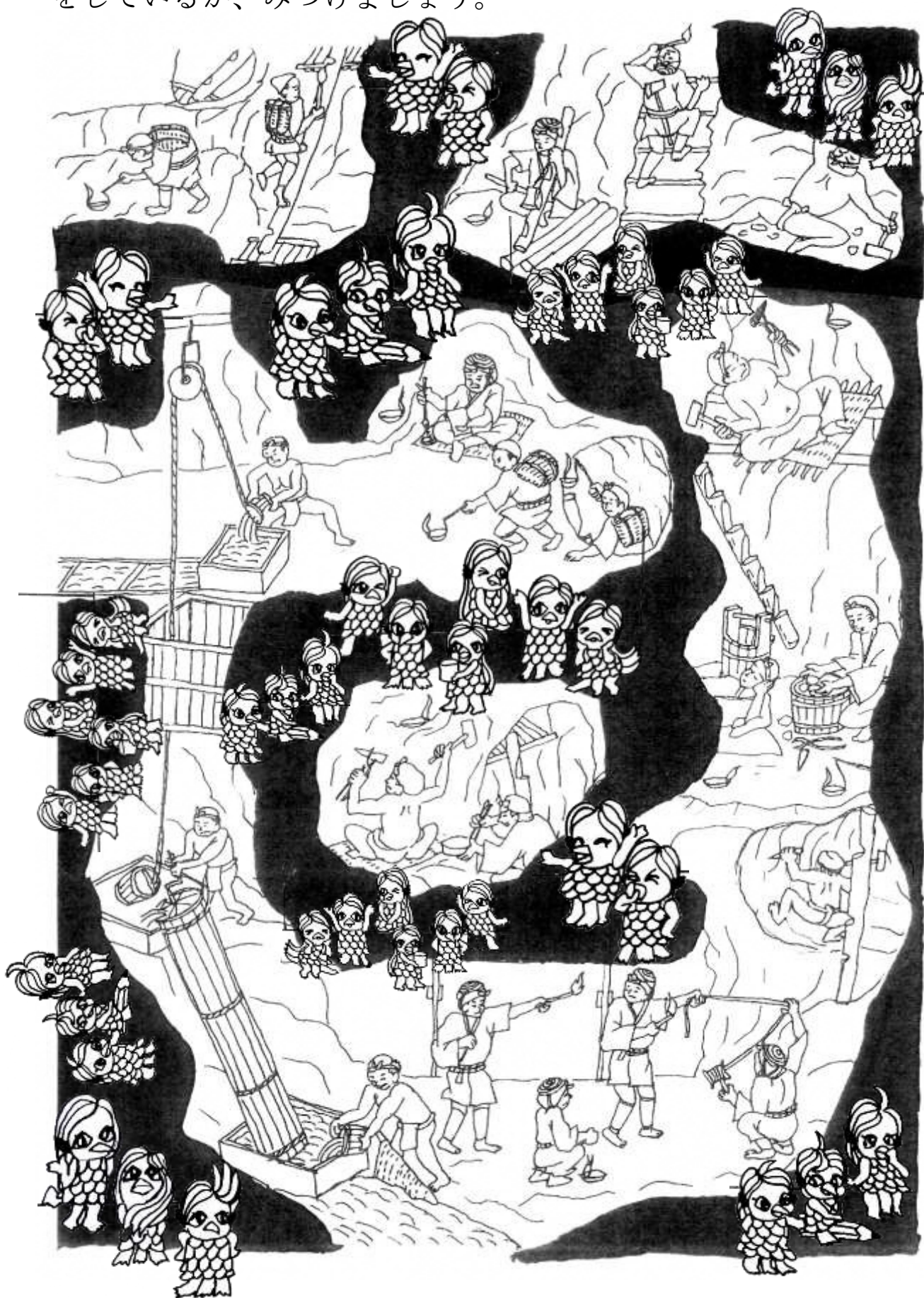
問題4：佐渡金銀山では、この道具を何と呼んでいたでしょう。

問題5：江戸中期から、この道具は使われなくなりました。なぜでしょう。

問題6：この道具は、金銀山以外の場所でも使われました。佐渡のどこで、何のために使われたのでしょうか。



江戸時代の佐渡金銀山の様子をえがいた巻物の一部に、サドリちゃんが登場！それに惑わされず、どんな人が、どんなことをしているか、みつけましょう。



前頁の絵をもとに、考えましょう。

問題 7：何人いますか。

問題 8：右図のように、ハチマキの上に何かつけている人がいます。どんな役目をするものでしょう。

問題 9：問題 8 の道具をつけている人とつけていない人では、何がちがうのでしょうか。

問題 10：かぶり物や服装はちがうのに、おびは全員が「縄」なのはなぜでしょうか。

問題 11：この絵の季節はいつでしょう。

問題 12：この絵の時刻はいつでしょう。



指導者・保護者の皆様へ

佐渡市立理科教育センター「アマビエ サドリ」第19弾は「佐渡金銀山」を学ぶ内容です。あまり知られていない内容を、絵から読み取り、考えるよう問題をつけました。答えは、次の通りです。

問題 1：道游の割戸（どうゆうのわりと）

問題 2：金などを採るため人間の手で掘ったから。

問題 3：幅は約 30m、深さは約 74m。

問題 4：水上輪（すいしょうりん）

問題 5：水上輪は広いスペースと傾斜角度が必要だった。鉦脈が乏しくなり、排水用に掘削する手間をかける余裕がなくなったから。その後は、桶で水を汲み上げる人海戦術に戻った。

問題 6：昭和初期までは、水田で、川の水を上げるために使っていた。

問題 7：21 人。

問題 8：「てへん」と呼ばれる安全帽。

問題 9：身分がちがう。身分の高い役人や技師しかつけられなかった。

問題 10：落盤で閉じ込められた時、救助を待つ間、食料にするため。（縄は芋の蔓でできていた）

問題 11：裸だから夏、ではない。季節に関係なく、坑道内は換気がなく、暑かった。

問題 12：すくなくとも夜ではない。役人や技師は、夜まで働かないから。

塗り絵をして、絵や図を詳細に見れば、多様な内容を読み取れます。興味をもって調べれば、上記の答え以上に豊富な学びが得られます。お子様と、問題について話し合ってみてください。

下記ホームページには、この他にも自宅で学べる教材がたくさん載っています。ダウンロードして、チャレンジしていただければ幸いです。

佐渡市立理科教育センター 〒952-1325 佐渡市窪田 60 TEL:0259-51-4649
FAX:0259-51-4650 E-mail:sadori@sado.ed.jp ホームページ：
<https://www.city.sado.niigata.jp/sadokyouhp/risen/index.html>

